

第九編 社會主義運動

概説

社會主義運動は當局取締の寛嚴の度に應じて或は陽性を呈し或は陰性を帯びる。それが本年度の我國社會主義運動に於て可なり顯著に現はれたやうに思はれる。即ち五

月末に於ける社會主義同盟解散令を境として其前半季は當局の取締、比較的寛であつたのに應じて社會主義者の運動も比較的景氣よき陽性を呈して居つた。此期間に社會主義同盟は僅かに新年宴會と第二回大會とを催したに過ぎなかつたけれども尙其存在は優に一個の威力ある存在たるを失はなかつた。四月下旬には我國最初の社會主義婦人團體たる赤瀾會が生れメーデーを門出として其存在の意義を發揮した。然るに後半季に入つて當局の取締嚴烈を極むるや社會主義者の運動は之れに應じて慘憺たる陰性を帯び、所謂不穩文書と稱せらるゝ秘密出版物の頻々たる横行となり、發して高津事件となり、最後に曉民共產黨の檢舉に至つ

て大團圓となつた。事態の險惡なるに驚いた當局は社會主義鎮壓令の制定を急いでるると傳へられてゐる。しかしながらそれによつて社會主義運動を絶滅し得るものではないことは獨り社會主義者彼自身のみ信念たるには止まらぬであらう。

以上の外、團體として特に擧ぐべきは勞働社、曉民會、自由人聯盟等であるが（後二者に就ては第二十五編雜、第一、新思想團體參照）、大體に於て本年度社會主義運動の實際的活動の中心が知名の士よりも寧ろ少壯派の手にあつたことは注目し値する。尙山川均氏の「社會主義研究」が勞農露國の紹介其他を以て評論界に光彩を放つたことを附加して概説の筆を擱くことにする。

一月

社會主義同盟の新陣容

日本社會主義同盟が昨年末成立し、執行委員として赤松克麿、麻生久、江口渙、岩佐太郎、加藤勘十氏等三十名を擧げたことは大正十年日本勞働年鑑第九編社會主義運動の項で記述した如くであるが、其中

高田和逸、高津正道、諏訪與三郎の三氏を常務委員、百瀬二郎、新明正道、大庭景秋、江口渙、岩佐太郎の五氏を雜誌委員、渡邊滿三、竹内一郎、服部濱次、吉田順司、原澤竹之助の五氏を宣傳委員、吉田守邦氏を會計委員、其他の諸氏を無任所委員とし、堺、山崎、山川、大杉氏等の長老株は委員外にありて之に協力する事とした。之の決定したのは昨年十二月二十日の執行委員會に於てであるが此陣容を以て本年度の活動に當ることとなつた。

社會主義同盟會員の公判

昨年十二月十日社會主義同盟發會式當日警視廳に檢束中器物破棄の罪名の下に東京監獄の未決監に投ぜられた大串孝之助外十三氏の公判は一月十四日、東京區裁判所に開かれた。同盟會員約百五十名は傍聽席に詰め掛けて示威的氣勢を擧げた爲めに警戒の警官と衝突し一時は大混雜を來した。而して十九日に左の如く判決があつた。

懲役四ヶ月、大串孝之助（黒旗會）、渡邊善壽（工友會）杉浦啓一（日本機械技工組合）、宮越信一郎（信友會）

三ヶ月、川合義虎(曉民會)、田所輝明(建設者同盟) 雜賀智之(北風會)、山元國三、赤間乾一(正進會)

二ヶ月、秋山清(友愛會)、浦田武雄(曉民會)、板橋萬吉(北風會) 一ヶ月、平井太吉郎(赤心會)

右に對し檢事から平井太吉郎に對して控訴あり、又各被告よりも控訴ありたるも、其後平井、雜賀 板橋三氏の外は控訴の取下げをなし第一審判決確定の上服役した。而して平井氏は第二審に於て二ヶ月となり、雜賀、板橋二氏は第一審通りの判決となり何れも上告したが之れ亦後に上告を取下げて服役した。

社會主義同盟主催の新年宴會

日本社會主義同盟主催の新年宴會は一月二十一日午後東京市日本橋區常盤木俱樂部で開催された。同計畫が發表されて以來警視廳では其プログラムの印刷物を押收したるを始め陰に陽に干渉して開會を阻止すべく努めたにも拘らず當日は中々の盛會にて集まり來る者二百餘名に達し、餘興も頗る振つたのが續出し、且つ珍しく一人の檢束者も出さず至極泰平に九時散會した。唯開會前午後四時頃堺利彦、石川三四郎、小川

未明の諸氏を始め參會者二三十名に達した頃國粹會員なりと稱する壯漢十數名押し寄せ來り棍棒を振つて暴行を働らき其中僅かに二名の者が檢束されて亂闘の幕を閉じた。

大阪の社會主義者四名突如 檢擧さる

一月廿六日大阪市内東區空堀町十一番地武田傳次郎及び山田正一の兩氏は突如高津警察署へ召喚され取調を受けたが、それと同時に岩井某氏が島の内署へ、又市内玉造町二山光館止宿西田房雄氏は玉造署へ召喚され嚴重なる取調を受けた。府警察部が漸く活動するに至つた發端は去る一月九日築港潮湯の樓上で四十二名の社會主義者が會合し其席上に於て「田園工場」と題する發賣禁止の小冊子を出席者に配布したのが原因である。尙同日高津署の警部は武田氏方へ赴き家宅搜索の上「バルチザン」と題した半紙六頁の騰寫刷一部を押收して引上げた。尙山田、西田氏等は十五日朝州携へて紀州和歌浦より乗船、田邊町に上陸し、南部 日置方面へ夫れく宣傳に出掛けて田邊警察署及び南部分署を手古摺らせたところがあるので今回の事件の突發するに共に田邊署に於ても同人等の行動並に

秘密出版物撒布の形跡等に就て調査中との事である。

文化運動擁護聯盟の成立

國粹會及び大和民勞會と稱する反動團體出現以來社會主義的諸團體に於ても自衛機關を組織することの必要を感じつゝあつたが特に一月廿一日夜の社會主義同盟新年宴會と自由人聯盟演說會の際に於ける騒動によつて非常に其成立を速められ月末都下十數個の文化團體が中心となりて茲に文化運動擁護聯盟の誕生を見るに到つた。左に記するものは其概文である。

諸君よ、今や我等は自力で吾等自身を衛らなければならぬ時が來た。

去る一月二十一日五反田相生亭に於ける自由人聯盟の演說會は、國粹會並に大和民勞會と稱する兇器を擁へた兇徒の襲撃に會つて妨害された。そして一聽衆松本淳三氏は毒刃に刺されて生命に關する重傷を負うた。然も斯くの如くにして彼等は社會主義者を殺し得たりと揚言してゐる。

然るに最も驚く可きは警察が彼等を巧に援助してゐる一事である。諸君よ、吾等が法律の保護以外に置かれし事實が最早極端に説明された。そして吾等は不斷なる生命の危険に曝され始めた。その結果吾等は吾等自身の力で

吾等を衛らねばならぬ時が遂に來たのだ。
茲に同志相集つて永久自衛の機關として赤衛
團を組織し以て彼等兇徒の襲撃に備へる可く
全く餘儀なくされて終つた。同志諸君よ、諸
君は直く様奮然起つて此團結に投ぜよ。

而して右の團結は其手始めとして一月卅
日淺草公園に於ける自由人聯盟の演說會を
衛る可く各自思ひ思の武器を携へて繰り込
んだが同夜は集會が中止せられた爲め公園
内に示威運動を行ひ檄文を撒き黒旗を押し
立て革命歌を高唱する等大騒ぎを演じた。爲
めに象潟署に檢束された者は橋浦時雄、原
澤武之助、三田村四郎氏外七名に達した。

「労働運動社」の復活と

「社會主義研究」の刷新

大杉榮氏を中心とする「労働運動」は去年
の七月以來中絶してゐたが今回週刊として
復活し一月廿九日第一號を出した、同人は
近藤憲二、大杉榮、中村還一、和田久太郎、
高津正道、伊井敬、竹内一郎、寺田鼎、岩
佐作太郎、久板卯之助の諸氏である。(同誌
は六月發行の第十三號を以て廢刊された。)
又從來山川均氏によつて編輯されて居つ

た「社會主義研究」は本年二月號からは山川
均、山川菊榮兩氏主筆となり、主力を注い
で之が刷新を期することとなつた。

二月

社會主義者賀川氏の宣傳

演說を妨害す

賀川豊彦、福井捨一氏等の盡力になる神戸購
買組合は二月五日午後七時から神戸市東川崎小
學校にて宣傳演說會を開催、岡成志、賀川豊彦
氏夫人等演壇に立ち、最後に賀川豊彦氏購買組
合の説明を爲し始めるや聴衆中に交つてゐた大
杉榮氏一派の安谷寛一氏外十數名の社會主義者
は一齊に彌次り出し「労働運動は汝の爲めに資
本化せり」など、叫び立てたので他の聴衆は大
に怒り遂に場内入亂れての格闘となり安谷、和
田、近藤、西脇氏等と及び聴衆合せて十數名は
夫々面部又は腕に打撲傷を負ひ鮮血床を染め窓
硝子は破壊され凄惨なる光景を現出した。

第一回借家人同盟大會

大杉榮氏一派の機關雜誌「労働運動」の大
阪市南販賣所を經營して居る逸見直造氏は
豫てより悪家主征伐の爲めに奮闘しつゝあ
るが其主催にかゝる第一回借家人同盟大演

說會の第一日は二月十四日午後七時大阪中
之島公會堂で開會、問題が時節柄の好題目
である上に大杉氏も出ると云ふことであつ
たので定刻前既に四千人も集まると云ふ大
盛況。而して會場前には「家賃の値下を斷行
せよ」「悪家主を葬れ」等大書した大旗が廿
許りあつて殺氣を帯びて居たので警官は數
百名出張して業々しく内外を警戒した。

逸見氏壇上に立つて開會の趣旨を述べ、進ん
で東京に於ける國粹會員の暴行を語り出した刹
那突然壇下より二名の暴漢現はれ兇器を振るつ
て氏の左額部に重傷を負はせたので滿堂鼎の如
く湧立ち「兇漢を殺せ」「警官無能」の聲喧々囂々
たる裡に血に染んだ逸見氏は病院に送られ件の
暴漢は悠々逃去つた。續いて岩佐作太郎、三田
村四郎、伊井敬、高津正道氏等が交々立つたが
皆中止を命ぜられ、最後に左の如き決議を爲し
て九時五十分閉會した。

借家人同盟會演說會開會中暴漢の爲め主催者
逸見直造氏を挾撃負傷せしめた事は當局の取
締宜しきを得ざる爲犯人檢擧の有無取締内容
の明示を要す。

借家人同盟擁護會

右演說會の第二日は翌十五日午後七時から天
王寺公會堂で開催されたが之れ亦堂内立錐の餘

地なく入場を拒絶するの大盛況を呈した。伊井敬、羽根田新太郎、谷政太郎、吉村新長、高津正道氏等の辯士相續いて「悪家主の征伐」「社會制度の缺陷」「財産とは何」等の題下に熱辯を振つたが多くは中止を命ぜられ九時四十分散會した。更に二月廿四日には濱松市濱松座に於て午後七時から塚本静默氏主催の下に借家人同盟大會を開き主催者の外に逸見直造、三田村四郎、岩佐作太郎、竹内一郎、渡邊満三、和田久一郎の諸氏相續いて壇上に立ち借家問題より進んで所謂社會惡の根元を論難して十時閉會した。

沖繩の社會主義者團體

庶民會成立す

伊豆味正重、渡久地政馮、城田徳明、比嘉榮、座安盛徳、浦崎夢二郎、烏袋組成氏等團結して沖繩唯一の社會主義團體として庶民會なるものを創立し、日本社會主義同盟の執行委員たる岩佐作太郎氏を招いて二月廿四日那覇區松下町の創立事務所に於て其發會式を舉行した。

三月

第二回借家人同盟大會

曩に大阪中央公會堂及び天王寺公會堂に於て大いに氣勢を擧げたる逸見直造氏等の

借家人同盟大會は其第二回を三月十五、十六の兩日天王寺公會堂に於て開催する事となり、十四日には逸見氏を先頭に「勞働運動」と白く染抜きたる赤旗を翳し自動車數臺を飛ばして市内各新聞社を訪問し萬歳を三唱した。而して十五日には前記會堂にて第一回を午後一時より開催し、逸見直造氏司會の下に諏訪與三郎、八幡晴道氏等の社會主義者の演説ありて何れも中止を命ぜられ最後に堺利彦氏の挨拶があつて三時頃散會した。此盛況は引續き夜の演説會も滿員二百餘名の警官の物々しい警戒裡に開會、吉田順司氏を劈頭に各辯士交々立つて現代社會制度の病弊を罵り資本家の横暴を鳴らしては何れも中止を喰つた。此に於て堺利彦氏起つて社會講演「大鹽平八郎」を講じて聽衆の大喝采を博したが之れ亦中止を命ぜられたので聽衆と警官との間に格闘始まり大騒擾裡に九時四十分散會した。此夜戒署に檢束された者は山田正一、諏訪與三郎氏等七名に達した。

翌十六日午後七時より引續き借家人同盟大會を天王寺公會堂に開催し、逸見直造、三田

村四郎、桑原練太郎、堺利彦、荒畑寒村氏等登壇之れ亦解散を命ぜられて大混亂裡に閉會した。同夜高尾平兵衛、安田晋次郎、高野すみ子の三氏は宣傳ビラを撒布したる廉を以て、戒署に引致された。

更に逸見直造氏主催の借家人同盟大會は十七日には午後七時より京都岡崎公園公會堂に於て、二十八日には神戸湊川公園商業館に於て大いに氣勢を擧げた。其他十九日には廣島明神座に於て、廿日には福山大黒座に於て開催すべく逸見、荒畑、堺其他の諸氏出張に及んだが官憲の壓迫の爲めに中止の餘儀なきに至つたので社會主義宣傳ビラを配布し示威運動を行つたのみで同地を引上げた。

大杉榮氏の退院

大杉榮氏は宿痼の肺患と腸窒扶斯併發の爲め二月十五日から東京築地明石町の聖路加病院に入院し一旦は主任醫から絶望を宣告されたが其後メキ／＼と持ち直し三月廿八日退院し鎌倉の自宅に引取つた。

四月

高尾平兵衛氏等足尾に於て捕はる

足尾の勞働爭議が愈險惡となるや高尾平兵

衛、原澤武之助、竹内一郎の三氏足尾に入り込み恰かも四月十二日の家族大會の折「激越」なる文書を配布したる事實判明し同夜警官隊の爲めに逮捕され十三日午前足尾發の列車で警官十名に護衛されて栃木區裁判所に送られた。(三氏は八月五日栃木監獄を放免された。)

雑誌「労働者」の出現

日本の社會主義者中の極左派として目せられて居る諏訪與三郎、渡邊滿三、高田和逸、吉田順司、吉田一、岩佐作太郎、高尾平兵衛其他の諸氏は從來の社會主義者が尙知識階級的興味を脱せざるを慨し純然たる労働者を中心とする雑誌「労働者」を四月十五日創刊した。其宣言の一部に曰く

我々は今までこの社會に於て奴隸にも劣つた地位に置かれてゐた事が判然わかつた。そして又人は生れながら平等であり自由であるべき事もよくわかつた。我々は安閑としてはゐられない。奪はれてゐた我々の一切の生活を取り戻さなくてはならなくなつて來た。……我々は微力であるが眞に此の誤まつた不合理な社會制度を根本的に〇〇し得るものはたゞ我々労働者の手の中にあると云ふ事を深く信じてゐる。……

社會主義左派の足尾罷業 報告大演說會妨害

日本鑛夫總聯合會主催の足尾罷業報告大演說會は四月廿日午後六時半から東京神田明治會館で開催された。聴衆三百餘名の中約三分の一は足尾事件の顛末に對し不満を有する左派の社會主義者であつたが果然報告演說初まるや小栗慶太郎、中村還一、北原龍雄、中名生幸力、福田秀一、京谷周一氏等口を極めて辯士を攻撃し「何故過激手段に訴へなかつたか」「労働ブローカーの腰抜け野郎」などと猛烈に彌次つて場内を喧々囂々たらしめ遂に福田秀一、京谷周一の二氏は檢束された。蓋し此夜の彌次連中の云ふ所は、組合の幹部が一度、社會主義者として名告りを擧げて置きながら今はそれを忘れたるが如く組合主義のみによらんとする態度を非難したのである。かくて之を機會として社會主義極左黨と労働組合指導者との間の溝渠が漸やく大ならんとする傾向が現はれた。

五月

赤瀾會の誕生とメーデー に於ける其活動

日本最初の社會主義婦人團體赤瀾會は左の如き綱領及び規約の下に四月廿四日呱呱の聲を上げた。

綱領。私達は私達の兄弟姉妹を窮乏と無智と隷屬とに沈淪せしめたる一切の壓制に對して斷乎として宣戰を布告するものであります。規約。一、本會を赤瀾會と名づけ當分の内事務所を麴町區元園町一の四四に置きます。一、入會者は本會の綱領及び規約を承認し確實なる同士の紹介ある方に限ります。一、本會は毎月第一、第三日曜に事務所に於て例會を開きます。例會は研究と相談を主とします。一、會員貳名以上の希望により臨時會を開くことが出來ます。一、會員の間に不審を認められた人に對しては審議の上除名を行ふことが出來ます。一、會を維持するため會員は一ヶ月三拾錢を納めることにします。

而して其會員は多く現在の日本の男子社會主義者の家族又は縁故の深い人々であつて山川菊榮、伊藤野枝兩女史を初め四十二名に達し其中實際運動を辭せずとする者十七名、残りは單に研究會に出て社會主義の研究に従ふとの事である。世話人は久津見房子、塚真柄、秋月靜枝、橋浦春子の四氏

である。赤瀾會の存在が世間の注目を惹いたのは労働祭以來であつて五月一日メーデーの大示威行列が日比谷にさしかゝるや突如赤瀾會員十數名が會旗を擁しつゝ行列の中央に参加し赤色の紙に印刷した「婦人に檄す」なるビラを撒布して大いに氣勢を掲げた。而してその爲めに檢束されたる者久津見房子、塚真柄、橋浦春子其他約十名に達し、秋月靜枝、中名生いね子の兩氏は東京監獄に拘禁された。

労働祭と社會主義運動

五月一日の労働祭を期とし社會主義各團體に於ては大いに活躍する意圖と計畫とを有し居たることは明かであるが之に對し當局に於ては最も猛烈なる壓迫方針を採り警察廳は管内各署に對し豫め過激分子の檢束を命じたる爲め當日は社會主義者は殆んど何等の活動をも爲すを得なかつた。只社會主義婦人團體たる赤瀾會の活動(別記)が注目に値したる位のものに過ぎなかつた。

社會主義同盟第二回大會

日本社會主義同盟は昨年十二月九日成立

社會主義運動

以來殆んど何等目ぼしい活動を示さなかつたが愈五月九日其第二回大會を東京神田青年會館で開催することとし席上執行委員の報告、宣言案の討議、役員選舉等を行ひ、引續き大會記念思想問題講演會を開き四十餘名の辯士出演して氣勢を掲ぐる豫定であつたが之に對し官憲の側に於ては社會主義同盟の存在は絶對に之を認めずとして唯單なる思想問題講演會ならば相當警戒の下に許すも差支なしとの態度を採つて居つたので此大會が同盟側の決心の如く首尾よく開催され得るや否やに就ても疑を容るゝの餘地は充分にあつたが又よし開催さるゝにして、第一回大會以上に官憲の干渉は嚴重を極め従つて非常なる混亂騷擾を惹起するであらうことは充分に豫想せられた。果然警察側は數日前から疾風迅雷的活躍を始めて猛烈なる壓迫を加へ結局同盟の首腦者及び闘士の大部分をして開會前既に全く活動の自由を剝奪して了つた。

かくて大會は九日午後六時開會、聽衆三千に達し満場立錐の餘地なき盛況であつたが辯士席には辛じて警戒網を突破し來りた

る高津正道、江口渙、服部濱次氏等數名に過ぎず。同十分高津氏は司會者として壇上に立ち、開會、座長推薦、役員選舉等と書いた貼紙を指し議事を進めることは到底不可能であるから執行委員に御一任を願ひ度いと叫ぶや忽ち錦町署長は解散の命を下し多數の警官を率ゐて壇上に突進すると同時に社會主義同盟萬歳の聲堂を憾がし場内混亂の極に達す。其利那明治大學生中曾根源和氏は「革命」の二字を大書した赤旗を壇上に翻す等の珍事があつて騷擾はいやが上に増大し格闘は所々で行はれ物凄き光景を呈したが聽衆は遂に警官のため場外に追ひ出され、小川町から美土代町錦町方面は幾千の群集街路を埋めて七時過ぎ迄さわめいた尙錦町署に檢束されたるものは左記四十名に達した。

川口嘉助、望月桂、エロシエンユ(露人)、高津正道、江口渙、服部濱次、加藤一夫、矢野芳雄、中曾根源和、栗林四郎、鶴橋泰四郎、和田源次郎、川崎春治、橋田明、福田英一、高野松太郎、中村賢三、林世照(鮮人)、塚ため子、同真柄、岩佐作太郎、藤田卓三、新井文雄、元鏡麟(鮮人)、秋吉爲一、鈴木文助、山田博道、渡邊政之助、谷

川吉彦、水谷武雄、徳田盈、小林安重、齋藤喜久次、長谷川達治、武良二、浅原政義、秋元金七、尾崎文藏、茂木友治、澤村三男、中澤秀定、加藤吉光、井出文藏、相川良彦、細川久一郎、猪本良作、桑田次郎、白井唯雄、神保定治

一方駿河臺の労働運動社には大杉榮、和田久太郎、川口慶助、中村還一、中名生幸力其他の諸氏相寄り如何にし嚴重なる警戒線を突破せんかと凝議しつゝあつたが大會開催の時刻近づく午後五時、大杉氏采配を振つて表門より出掛るや否や忽ち警官の包围する所となり無理矢理西神田署に検束されて了つた。

翌十日夜六時から東京麴町區元園町の同盟事務所にて社會主義同盟懇親會が開催され上京した地方會員も馳せ参じ出席者百廿餘名、高田和逸氏の大會經過報告で開會し石川三四郎氏の労働運動に關する講演終つて秋田雨雀氏登壇するや臨場の三原麴町署長は治安を害すとの理由を以て中止を命じ九時十分騒擾裡に散會した。

大電労働争義と社會主義者

の検束

大阪電燈株式會社の労働争議が白熱し來つた五月十日西區春日日出町西法寺に於て職工大會が開かれたが其散會後群集の先頭に立つた社會主義者三田村四郎、武田傳次郎、大西昌、三野啓逸の四氏は煽動的言行を爲したとの廉を以て朝日橋署に検束された。

極度の壓迫を蒙りし借家人

同盟大會

逸見直造氏一派主催の借家人同盟大會は五月十日午後七時から大阪市北區菟我野町不動寺境内で開かれたが時恰かも大電争議の紛糾せる折柄なるに加へて前日東京に於ては社會主義同盟の大會が解散を命ぜられてゐるので特に當局の注意を惹き總勢百五十名の官憲が聴衆の殆んど半數を占めて警戒に努めた。劈頭社會主義者林貞世志氏の開會の辭に次ぎ金咲道明、桑原練太郎、逸見直造、荒畑寒村、吉村俊作、高野すみ子等の諸氏出演したが悉し注意中止を受けた。

越えて十六日には天王寺公會堂に於て更に借家人同盟大會を開催すべく此時は大電

罷工團及び友愛會も参加して應援演説を爲す筈であつたが當局は事前に之れが開催を不可能ならしむべく逸見直造、三田村四郎、桑原練太郎、安藝盛、林貞世志、大野徳太郎、大西昌其他の諸氏を悉く検束して了つた。又此大會を應援すべく東京より西下した赤濁會員久津見房子、堺真柄等の諸氏は十六日朝着阪すると同時に會根崎署へ検束された。

週刊新聞「大衆運動」の創刊

久しく「資本論」の翻譯に没頭して實際運動から遠ざかつて居つた高島素之氏及び北原龍雄氏等國家社會主義を奉ずる一派は五月廿一日週刊新聞「大衆運動」を創刊した。其の提唱する所は議會主義及び労働組合主義に對抗し、全プロレタリアが直接に運動の主體となる大衆主義によつて國家社會主義の實現を期せんとするにある。(同誌は八月三日發行の第十號を以て廢刊された。)

熊谷町に於ける社會主義講

演會と朔風會の組織

埼玉縣熊谷町に於ける社會主義講演會は

五月廿六日午後一時熊谷寺境内に於て開催
聴衆五百餘名。長島新氏の開會の辭に次ぎ
石川三四郎、岩佐作太郎、高津正道、和田久
太郎其他の諸氏出演したが何れも中止を命
ぜられた。而して此一派は閉會後同地に於
て社會主義結社朔風會の發會式を擧げた。

社會主義同盟に解散命令下る

近來社會主義者の活動益猛烈となり社會
主義同盟の如きは全國に數千の會員を有す
るのみならず尙漸次膨脹し行く有様なので
當局は之が絶滅に苦慮しつゝあつたが遂に
五月廿八日突如として解散命令を同盟に對
して發した。即ち警視廳では同日午後二時
同盟執行委員の一人たる高津正道氏を呼出
し岡警視總監の名義を以て左の命令書を手
交した。

結社日本社會主義同盟は安寧秩序に妨害あり
と認むるを以て治安警察法第八條第二項に依
り其結社を禁止する旨内務大臣より達せられ
たり、右傳達す。

之に對し同盟側に於ては三十一日夜麴町
區元園町の同盟事務所に於て執行委員會を
開いて凝議したる結果結局之を受くること

とした。同盟側の意向は三十日の中外商業
新報に現はれた左の如き同盟某幹部の談に
よりて明かである。

今日午後四時頃本部からの通知で承知したが
豫期して居つた事なので別段驚きもしない同
盟は昨年の春頃から三四名の者が計畫し數十
回の會合を重ねた結果昨年暮に第一回大會
を開いた、其當時の警視廳は此同盟に對して
餘り重きを置かず寛大の處置を執つて居つた
夫は普通にある結社と同じやうに内輪喧嘩を
起して纏て潰れるものと思つて居たらしい然
るに豫期に反したものだから狼狽して先頃第
二回大會を開く前から非常な壓迫を加へ始め
た、だから解散の事は實は豫期して居つたの
である、警視廳は是迄も社會主義同盟を認め
ないと思つてゐたが今日解散を命じたと思ふ
事は即ち同盟を正式に認めたる事になる譯であ
る、解散した處で我々の運動には何等の痛痒
も感じない、解散命令に對しては行政裁判に
訴へると云ふ手段もあるが夫程にして迄總同
盟の名を固執するがものもないので放任して
置く方針である。

エロシエンコ氏追放さる

露國青年盲詩人ワシリイ・エロシエンコ
氏は渡日以來童話を創作する傍ら社會主義
者の間に交友多く勞働祭及び社會主義同盟
第二回大會の折等に檢束處分を受け當局よ

り過激思想の宣傳者と看做され警戒を受け
てゐたが遂に五月廿八日附で内務大臣より
退去命令を交附された。而して彼は知友諸
氏の深甚なる同情を受けつゝ六月四日敦賀
發の鳳山丸で浦鹽に向つた。

六月

朝鮮赤化の陰謀團逮捕

六月三日朝鮮京畿道警察部の發表する所
によれば京城在住辨理士季重赫一派の朝鮮
赤化陰謀連累者全部逮捕され取調の結果内
十二名は同月三日檢事局に引渡された。陰
謀の内容は右一派は昨年夏より獨立資金公
債を發行し既に一萬二千五百圓を募集し内
五千圓を上海假政府に送り又一方露國勞農
政府とも聯絡を取り昨年九月鮮内の小農者
を糾合して勞農會なるものを組織し朝鮮を
赤化して無政府共產主義を出現せしめんと
企てたるものであつて既に慶尙南北、全羅
南北に亘りて三千五百餘名の會員を募集し
居り近く假政府を介して勞農露國より資金
の供給を得んとしたものであると。

社會主義者の借家人同盟組織

曩に當局から解散を命ぜられた日本社會主義同盟の活動分子たる堺利彦、石川三二郎、和田久太郎、三田村四郎、加藤一夫、服部濱次、岩佐作太郎、高津正道、吉川守邦等の諸氏は更に「借家人同盟」なるものを組織し六月六日午後六時から東京神田青年會館に於て住宅問題講演會を開催した。當局は例によつて物々しく警戒を加へ、又聽衆は館内に充満して立錐の餘地なき盛況であつたが布施辰治氏の演説終り石川三四郎氏登壇するや階上より赤旗を振つて二三禁止出版物を撒布した者があつたので忽ち大騒擾を惹起し臨檢の錦町署長より解散を命ぜられた。而して當夜騒擾して檢束された者は十一名に達した。

L・L會員の判決

昨年十一月三十日京都輕重兵第十六大隊を除隊となつた高山元京都友愛會支部長を歓迎するとして歓迎旗に不穩の文字を記し警官隊と衝突を演じた大阪L・L會員等の公務執行妨害、傷害、治安警察法違反事件は京都地方裁判所で審理中であつたが六月六日

午後一假佐藤裁判長から七被告に對し左の如く判決を言渡された。

懲役六箇月荒畑勝三、同四ヶ月大西昌、三野啓逸、金咲道明、奥村甚之助、高地傳次郎、同二ヶ月鍋山貞親

右に對し荒畑氏のみは服罪し他の六名は控訴した。七月に入り鍋山氏は控訴を取下げて服罪し、残りの五氏に對しては八月十六日大阪控訴院に於て判決言渡あり、其結果金咲氏は無罪、大西氏は控訴棄却、三野、高地、奥村三氏は改めて懲役四ヶ月に處せられた。

赤瀾會の婦人問題講演會

赤瀾會の婦人問題講演會は六月十一日午後一時から東京神田青年會館に於て開かれ聽衆堂に滿つるの盛況中には東京女高師、津田英學塾、女子職業、淑徳女學校、女子醫專等の女學生が數多く混つて居た。演題及講演者は左の如くであつた。

開會之辭(久津見房子)日本の女性の自覺(藤森成吉)生物の發生と婦人(秋田雨雀)子が婦人觀(石川三四郎)旗持となりて(堺眞柄)婦人問題の難關(伊藤野枝)革命後の獨逸婦人(守田有秋)等。

七月

社會講談試演會

堺利彦氏等は昨年七月の雜誌「改造」に始めて社會講談なるものを發表し講談の形式を用ひて其思想を通俗的に宣傳することを奏出したが其試演會を七月三日夜東京新橋東洋軒に於て催した會衆約五十名、堺氏の挨拶で試演に移り井田秀明氏は「金持金助」「藤十郎と富藏」松原晴山氏は「國定忠治」「鑄掛松」の二席宛を演じ十時閉會した。

赤瀾會の夏期講習會

赤瀾會では七月十八日より二十二日迄毎夜七時から東京市麴町區元園町一の四四同會事務所にて聽講無料の夏期講習會を開催。堺利彦、岩佐作太郎、伊藤野枝、守田有秋、大杉榮、山川菊枝氏等の講演があつた。

近藤榮藏氏の内亂罪不起訴

伊井敬なるペンネームを用ひて雜誌「労働運動」「社會主義」「社會主義研究」等に頻りに執筆しつゝあつた労働運動社同人近藤榮藏氏は五月十四日突如下關に於て同地警察署の手に逮捕された。事件の内容は同月上旬上海に於て露西亞過激派宣傳部より宣

傳費として二萬圓を受取り日本勞働者に過激思想を宣傳する目的を以て歸來したるが爲めであると傳へられた。然るに其後取調の結果證據不十分の故を以て七月廿五日内亂罪不起訴の決定を受けて放免された。

八月

福田狂二氏出獄す

大正七年六月不敬罪に問はれ三年の懲役に處せられた福田狂二氏は八月十三日早朝同志二十數名の出迎へを受けて出獄した。其の出獄歡迎會は堺利彦等の發起にて同月廿一日東京麴町區清水谷公園皆香園に於て開催されたが結局解散を命ぜられ高尾平兵衛氏は檢束された。

菊川俱樂部の社會主義問題

講演會

堺氏等主催の社會問題講演會は八月廿七日午後六時から東京深川區菊川町菊川俱樂部に開催労働者町のこととて定刻已に満員の盛況であつた辯士は堺利彦、八幡博道、高津正道、中尾新三郎、川口慶助、岩佐作太郎、中名生幸力等の諸氏で堺氏以外の者は悉く中止命令を受け騷擾裡に十時閉會したが檢束されたる者十三名に達した。

熊谷町の小作問題研究講演會

埼玉縣熊谷町湖風會員長島新氏其他同志は豫ねてより小作人間に運動を試みつゝあつたが八月廿八日縣下大里郡太田村純泉寺に於て小作問題研究を名とする講演會を開催し東京より岩佐作太郎、中名生幸力其他諸氏出演したが何れも中止を命ぜられたる上一同檢束された。

九月

大阪社會主義者團と警官隊

との衝突

在阪社會主義者約三十名の一團は九月四日午後七時から大阪市南區道頓堀カフェークレナイに會合を催し、來阪中の加藤一夫氏の講演を聽講中、警官の爲めに解散を命ぜられ、更に第二會場としてカフェー・パウリスタに集まつたが再び解散を命ぜられたので街路に出で東區空堀町一關西労働社に向ふ途中革命歌を高唱した爲め十數名の警官隊と衝突し其結果武田傳次郎、河合義虎、高橋樟楠、小西武雄、田中郁夫五氏は島之内署に檢束された。

高津正道氏夫妻の收監

警視廳にては八月三十一日天長節の當日巡查三十餘名の一體を組織して東京府下戸塚町字源兵衛二三四曉民會本部を襲ひ高津正道、石川曉星、川崎憲二郎、高瀬清、浦田武雄、原澤武之助其他を引致し且つ嚴重なる家宅搜索を爲した。而して取調の結果高津、川崎、高瀬の三氏を浮浪罪の名の下に拘留に處し他の諸氏を一先づ歸宅せしめた。九月九日に至り高津氏夫人たよ子氏を召喚して其儘警視廳に留置し、更に十四日には島中雄三、下中彌三郎、岩佐作太郎、加藤一夫氏等の家宅搜索を行つたが十五日に至り高津正道並に妻たよの兩氏は東京地方裁判所檢事局より令狀を執行され收監さるゝに至つた。其收監理由は昨年十二月二十八日を初めとし本年二月及び五月の數回に亘つて全國の各師團、青年團、中等教員、學生、思想家、文士等に對して「共產黨宣言」「スバルタカス宣言書」「お目出度誌」「時代訓」「人生訓」其他の不穩文書を翻譯出版して配付宣傳に努めたるにありて不敬罪と出

版法違反に問はれたるものである。

諏訪町の社会主義講演會

お流れ

長野縣諏訪社会學研究會主催の下に九月十八

日上諏訪町都座に於て開催の筈の社会主義講演會に臨むべく東京より堺利彦、岩佐作太郎、徳田球一、曾根龍久、小岩井淨、千葉雄次郎の諸氏同地に赴いたが警察の壓迫の爲め同講演會は開催不能となつたので製絲女工の中心地たる岡谷の同志竹内伸之氏方にて懇談會を開いた。

十一月

仙臺赤化協會の宣傳演說會

仙臺赤化協會主催の宣傳演說會は東京から大杉榮、岩佐作太郎、加藤一夫、中名生幸力、秋月靜枝等の諸氏を聘し十一月十三日午後六時より開會の筈であつたが、開會前に大杉、岩佐、加藤の三氏が檢束された爲め、定刻より遅る一時間午後七時漸く開會、警官の嚴戒裡に中名生幸力、庄司海太郎、中村還一、中尾新三郎、平野寅二、西脇穰の諸氏相次いで登壇したが何れも中止命令を受け七時五十分遂に解散を命ぜられ

て喧騒裡に閉會した。

因に檢束されたる前記三氏は翌十四日未明東京へ護送せられた。

十二月

社会主義と軍隊

全国各地の軍隊に向つて社会主義的文書を配布する事件は近來頻出しつゝあるが、當局は之れに對して異常なる警戒を爲しつある一方、新入兵にして社会主義と看做さるゝ者は之を除隊する方針なりと傳へられてゐる。尙軍隊と社会主義との問題に就て憲兵司令官長坂中將の語るところを十二月二日の福岡日々新聞より引用すれば左の如くである。

近時軍隊内に社会主義宣傳の文書を配附し軍隊を赤化せんとする運動が頻々として行はれ這般の大演習當時檢舉された一味の如き其運動は統一され組織的のものであつた又最近入退營時を狙つて各所に行はれて居る不穩文書配布は更に大袈裟な而かも巧妙な方法であつて斯の如きは國家を危ふくする非國民的行爲と云はねばならぬ併し軍隊の中には社会主義者は一名も無く又今後如何に巧妙な方法で文書を配布しても軍隊内の組織は斯の如きものを入れないやうに出來て居るから安心だ尤も

在郷軍人中には一度軍隊生活の經驗を有する歸休満期兵と未教育補充兵とがあつて後者は軍隊の訓練を経て居ないから此方は油斷が出來ない軍隊から社会主義者を出すやうになつたら國家も自滅するの時であると云はればならぬ

秘密結社曉民共產黨檢舉さる

本年九月以來所謂不穩文書は殆んど全国的に撒布され其間に於ける社会主義者の隱密なる活動の頗る猛烈なるを想像せしめたが、果せる哉當局の嚴重なる捜査及び取調により其大體の輪廓が明かになつた。これによれば

今回警視廳の活動の發端は去る九月上旬不敬罪出版法違反などの廉で高津正道以下曉民會一派の社会主義者を檢舉した、當時彼等の背後には必ず何物か潜在せることに着眼し大久保特別高等課長采配の下に活動を始むることとなつたとして取調への進行と共に露國勞農政府の東洋宣傳機關たる上海共產黨と我が社会主義者との間に何等かの聯繫あることが判明したので十月上旬二名の刑事を上海に派遣した、刑事等は支那人に變裝して上海共產黨内に入込み巧妙なる方法を以てその内情探査に努め警視廳では是等の報告を一々接受し漸く其真相を掴むことが出來た

一方東京でも一部の主義者が十月十二日を以

て不穩文を刷つたポスターを市内各所に撒布する計畫あることを探知し同日午前八時、管下各署にその旨打電し各署は、殆んど全署員を動員して偵邏に任じてゐる中、彼等は同日午後七時から十二時までの間全市一齊に共同便所、板塀等に右ポスター貼付に出懸くる計畫との情報があり警官隊の活動の結果遂に之を未然に防ぎ新井、之助、小林康重、平林權藏の三名を捕獲、西神田署で現行犯として取押へ更に關係者十五名ピラ三千枚（内一千枚は既に撒布したもの）を没収したが、續いて同夜水曜會一派の主義者川崎憲次郎、佐野一夫、中曾根源和の三名を警視廳に拘引し、越えて十一月二十一日朝、大演習参加の軍隊が東京市内に多數宿泊するの機會に近藤榮藏、浦田武雄等は「軍人諸君」と題する朝憲紊亂の宣傳文書を配布するの計畫あるを探知したので十一月二十日夜浦田がその印刷を依頼した府下隅田村大島印刷所主大島義晴より八百枚の文書を受取り四谷伊賀町無産社に引揚げた處を文書と共に取押へた。

尙上海共産黨の密使英人ビー・グレーは或使命を齎して二十二日横濱に來着の情報あり、山田警部は同日早朝横濱に出張しその入港を待受け取押へるに至つた。

斯くして多數關係者を拘引取調べの結果四谷伊賀町無産社の内に秘密結社曉民共産黨を組織し近藤榮藏がコンミサルとなり、上海共産黨と氣脈を通じ全國に亘つて主義を宣傳し十二月上旬を期し東京で大會を開くの計畫で

社會主義運動

あつたこと明瞭となつたのである。起訴された者は

近藤榮藏、高津正道、川崎憲次郎、中曾根源和、山上正美、平田新作、大島義晴、浦田武雄の八名である。

而してグレーに對しては十二月二日午後四時内務省から井上神奈川縣知事の手を経て退去命令を發したので、グレーは四日午前十時横濱出帆の日本郵船春日丸で嚴重な監視の裡に上海に向つて去つた。

尙右事件に關連して堺利彦、山川均、下中彌三郎等の諸氏も取調を受けたが事無く濟み、唯赤瀾會員堺真柄、中曾根貞代の兩氏は取調の結果六日夜東京監獄に收監された。因に先に高津正道氏と同時に收監されたる高津たよ子氏は七日責付出獄を許された。

右事件の結果近藤榮藏氏が九月下旬創立したる賣文社も危地に陥り、堺利彦、山川均、大杉榮、山崎今朝彌の四顧問が同社の存廢に就て考慮することになつた。

尙高尾平兵衛氏は十一月上旬突如として東京府下巢鴨なる労働社より姿を晦し爾來行衛不明であつたが十二月十三日警視廳に拘引され取調

の結果右事件に關係ありきのことにて十五日檢事局に送られた。

横濱の過激文書撒布事件

吉田只次、山上房吉、佐々木左門、齋藤光太郎の四氏は横濱市内に過激宣傳ピラを撒布した處で收監されてゐたが十二月三日横濱地方裁判所に於て第一審判決言渡しあり、吉田氏は禁錮四ヶ月、他の三氏は各二ヶ月に處せられたが何れも控訴した。

雜誌「社會主義」の朝憲紊亂事件公判

雜誌「社會主義」四月號に近藤榮藏氏の執筆したる「社會進化の意識」なる論文は朝憲を紊亂するものなりとて筆者近藤及び同誌編輯人岩佐作太郎の兩氏は起訴され、其第一回公判は十二月五日東京地方裁判所に於て開かれた。

露西亞飢饉同情勞働會と

民衆藝術展覽會

十一月二十八日夜東京麴町區元園町の舊社會主義同盟本部に都下の勞働團體及び思想團體約四十を網羅したる有志百餘名會合し、飢饉に苦しめる露西亞の現状を救ふべく「露西亞飢饉同情勞働會」を組織し實行委

員十名を擧げて直に實行方法を講ずる事とし、十二月に入つて運動を開始したが凡ゆる宣傳ビラは禁止され、會そのものも非公式の解散命令を受けた。

こゝに於て大杉榮、堺利彦氏等は更に民衆藝術展覽會を計畫し、十四日其の第一日を神田區北神保町中華民國基督教青年會館で開催したが之れ亦突如警官の來襲を受け禁止を命ぜられた。

荒畑寒村氏の出獄

荒畑寒村氏は豫て京都監獄に服役中であつたが愈々刑期満ちて十二月二十日午前一時半出獄した。深夜に出獄させたのは當局が同主義者の集合を慮つたからである。かくて氏は今後東京に於て活動すべく二十七日大阪を引上げた。

施存統氏退去を命ぜらる

東京市外高田町字高田一五五六、三崎館止宿支那浙江省金華縣人施存統氏は大正九年十日入京し、目白の同文書院に入學したが本年一月中旬退校し、爾來我國知名の社會主義者と往來してゐるが十二月廿七日午後俄かに内務大臣から退去命令を發せられ

廿九日横濱出帆のアリゾナ丸で上海に向つた。その理由として聞くところによれば彼は上海に於ける支那社會主義者の巨頭陳獨秀の配下で、上海社會主義大學の代表者として渡日して日本の社會主義を研究し通信によつて世界各地の同主義者と連絡して氣脈を通じ、特にモスコの第三インタナショナルとは密接な關係を有して居るのみならず、過般檢舉されたる近藤榮藏氏等の事件にも間接の關係あり、日本の安寧秩序を紊す事實あることが判明した爲めである。